



新野 晃敏 先生  
(鮎貝地区)

放っておくと『命取り』になるよ

シリーズ

まちのドクター先生!

みんなを元気に!

新シリーズがスタートしました。町のドクターにお話を伺います。初回は新野先生です。

医師になるきっかけ

父の影響です。

父は中国の満州鉄道病院の医師でした。私も満州で生まれ父の背中を見て育ちましたので、自然と医学の道に進んだのだと思います。

母に感謝

終戦直前、母は弟を背負い私と姉の手を引いてひと足先に帰郷しました。命がけで私たちを守ってくれた母に心から感謝しています。

ドイツに留学も

高校卒業後、日大医学部に入学。昭和48年に当時の西ドイツ・ゲーセン大学に3年間外科留学後、日大医学部で学生の指導・育成に当たり、その頃指導した学生の1人が、天皇陛下の執刀医を務めました。

専門は胸部外科

白鷹にいずれは帰るつもりでしたので、ケガなどの患者さんが一番多いのではないかと、思っ外科を選びました。

白鷹町の医療体制

白鷹町は人口の割には医療体制が充実しているのではないかと思います。得意分野を持つ先生方が頑張っておられるし病院への後方支援として医療連携も始まりました。今後の課題は医師自体の高齢化と若い医師

の確保です。町出身の医療者には、ぜひ町で働いてもらいたいものです。

健康アドバイス

『たぶん大丈夫』は、禁物です!

内科・外科にかかわらず初期治療が大事です。体調がふだんと何か違うなと感じたら、迷わず受診してもらいたいと思います。『たぶん大丈夫』は禁物です。健康に常に気を配って、少しでも気になったらかかりつけ医を訪ねてください。

放っておくと『命取り』になってしまう場合もあります。

議会に期待すること

町民を代表している者として、行政のチェック機能をしっかりと果たしてもらいたいと思います。

また、町民は町政の詳細まではわかりづらいものです。住民の声をしっかりと聴いて、町議は一人倍勉強をして『町民のための仕事』をしてください。

取材を終えて  
お母様の話は感動しました。命を守る仕事に就かれた原点もここにあるのかと感じます。大事なアドバイスもいただきました。健康も政治も『たぶん大丈夫』は禁物であることをあらためて学びました。(笹原)



お手持ちのパソコンで議会中継をご覧ください。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。

編集後記

肌寒い日が続き、農作物への影響が心配されるなか開会された今定例会ですが、補正予算を見ると、営農の大規模化を目指す国の方針に合わせる形で、農業関連の追加が主なものとなりました。しかし本町には、小さな耕運機と鍬1本を手には、田畑を精一杯耕すお年寄りが大勢おられることも忘れてはなりません。

今年から広報委員のメンバーが一部変わり、今号は、定例会の結果をできるだけ早く伝えるために、これまでより約10日早い発行を試みました。委員一同、皆様の目線に立ち、よりわかりやすい議会報を目指します。(佐々木)

広報委員

- 委員長 奥山 勝吉
- 副委員長・編集長 佐々木 誠司
- 委員 石川 重二
- 委員 笹原 俊一
- 委員 渡部 善美
- 印刷 (有)梅津印刷

